三重県指定無形民俗文化財
射和祇園祭の屋台行事

射和（いざわ）祇園まつり

勇ましく元禄の雅を今に伝える

祭りの概要

起源は、射和軽粉（けいふん）で成功した射和の豪商（冨山家、竹川家、國分家等）が江戸、京都に進出したことで、祭りも京都の祇園祭りを取り入れ、元禄時代から盛んになりました。

射和町は6町内（6組）に分かれ、各組ごとに大小の屋台（山車）を一基ずつ計12基持っています。 伊佐和神社には、元禄時代の作と、明治時代に更新された2基の神輿があります。

※射和町６組と６町内名

香椎組（かしいぐみ）（上之町）、高砂組（たかさごぐみ）（御蔵町）
三栗組（みくりぐみ）（中之町）、八雲組（やくもぐみ）（下之町）
素鵞組（そがぐみ）（裏　町）、宮本組（みやもとぐみ）（新出町）

開催日　平成30年7月7日（土）・8日（日）
場　所　松阪市射和町一円

行事日程

宵宮 7 日（土）

各組の小屋台（6基）は午後1時に國分家前に集合し伊佐和神社まで巡行、参道に並びます。
午後2時ごろ神輿に御神移し終了後、小屋台は神社から各町内を巡行し大日堂に入ります。

神輿は町内を練り歩き（巡行）、御旅所（大日堂）に納められ神饌が供えられます。

夜は祇園囃子を奏でる提灯がゆれる大屋台（6基）が御旅所まで巡行し、神輿と小屋台と共に元禄時代から続く幻想的な世界へと誘います。

※伊佐和神社

本日 8 日（日）

小屋台と神輿は御旅所から朝9時頃に出発し各町内を巡行し、延命寺山門前に並びます。
神輿は「チョウサーヤー」の掛け声で《縦ゆすり》、《横ゆすり》と観客の目を楽しませてくれます。

夜8時延命寺山門前から御神人を先頭に高張り提灯に包まれた神輿と、灯りを点した小屋台の勇壮な絵巻で祭りも最高潮に達し、観客を魅了せずにはいられません。

夜10時を過ぎると神輿を送った小屋台は各組へ帰り闇夜のなか神輿は還御（神社に帰る）します。

※御旅所（おたびしょ）→大日堂に設置されたテント張りの神輿の仮宿

お問い合せ　☎0598-29-2276　http://izawagionmatsuri.jp/

※事故防止の為、ドローンの飛行・撮影は禁止します。

主催：射和祇園祭保存会　協賛：射和町自治会　後援：松阪市観光協会